

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 令和3年1月7日(木) 晴	開催テーマ： 「六浦から追浜へ浦賀みちを辿る」
開催場所： 金沢区、横須賀市	記入者： 熊谷 滋子
参加人数：	
会 員	男 17名 女 6名 計 23名
ビジター	男 0名 女 0名 計 0名
合 計	23名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：	
<p>コース：京急六浦駅(集合)～諏訪之橋～象塚跡～三艘橋～三艘町内会館・文殊菩薩（拝観）～庚申塔～浅間神社～厄神様～傍示堂～雷神社～築島～陣屋跡～良心寺～首斬観音～京急追浜駅(解散)</p> <p>浦賀道は現在の大道小学校のあたりから浦賀方面へ行く古道である。京急六浦駅を出発し六浦道との分岐点である諏訪之橋から浦賀道を辿る。諏訪之橋近くの丘の上に六浦字川の鎮守の諏訪神社がある。</p> <p>次の目的地へ行く途中の六浦白梅公園の角に、かつてこの地にあった幼稚園の二宮金次郎像をブラジルのサンパウロ神奈川県人会に寄贈し、その返礼のブラジル国花のイペの木がある。春に黄色の花を咲かせるらしい。</p> <p>浅間神社近くに象ヶ谷と呼ばれる地がある。昔、船で運ばれてきた象が船上で死んでしまい湊近くのこの地に埋められ象塚と呼ばれた。近くに象ヶ谷橋の名も残る。</p> <p>三艘橋のある三艘は、唐船が三艘寄港した事に由来する説や三度来航した事によるという説がある。</p> <p>三艘町内会館には追浜の良心寺から遷された文殊菩薩がある。小田原北条氏の家臣朝倉能登守景高の持仏であった。かつて祀られていた文殊堂が京浜急行逗子線開通の為無くなり町内会館に安置され今も町の人により文殊講が行われている。</p> <p>厄神様は現在は削った山の下に移されたが、1550年頃安房の里見軍が来襲した折、小田原北条氏に敗れて亡くなった武将達を近隣の人達が埋葬した。それ以来、村が疫病から免れるようになったので信仰されている。傍示堂は武蔵と相模の国の境にあった。現在は国道16号沿いに地蔵像や石塔群と共に祀られている。</p> <p>雷神社の祭神は火雷命(ホノイガヅチノカミ)。朝倉能登守が16世紀末にこの地に遷し、雷神社(イガヅチノツヤ)と改める。地元では「カミナリ」神社と呼ばれている。境内には平成20年富岡から遷された横浜海軍航空隊の浜空神社がある。</p> <p>昔、離れ小島であった築島には1559年に落雷で黒く焦げたビヤクシンが残っている。小田原北条時代の領主朝倉氏の居所である浦郷陣屋跡には門のあった所に大門という地名が残っている。</p> <p>良心寺は久遠山 大悲院。本尊は阿弥陀如来。元は曹洞宗であったが、朝倉能登守が夫人の菩提を弔う為に浄土宗に改めた。夫人の戒名「良心大姉」から寺名がつけられた。景高の墓はどこにあるか不明とのこと。</p> <p>罪人の首を切ったという言い伝えがある首斬観音は、大正末期の国道の工事で発見された頭蓋骨の供養碑として石塔が建てられた。碑文は船越に住んだ俳人「松竹庵梅月」の書。左右の碑には「南無阿弥陀仏」「南無妙法蓮華経」と刻まれている。</p> <p>浦賀道には江戸時代の黒船騒ぎの時には早馬が往復する重要な道であった。かつて海だった所や山が連なっていた所など面影を残しつつ変貌していったが、今もその歴史を示す地名が残っていることにより昔に思いを馳せながら辿ることができた。</p>	
参加者の状況・意見など：	
台風のような強風の中、無事に探訪を終える事ができた。	
次回の予定：	
令和3年2月4日(木) 9時30分 金沢地区センター大会議室 DVD鑑賞 百寺巡礼	